

夏の特別対談企画

国連の根本さんと海のお話

プラごみが深刻化

夏まつさかり！ 今年はまだ海にでかけましたか？ 実は今、海でとても心配な問題が起っています。それは海をただよるプラスチックのごみです。海は世界につながっています。そこで世界の国々が集まる国際連合（国連）の機関などが中心となって、様々な話し合いが進められています。今週と来週は国連の活動を日本に広く伝える国連広報センターの根本さんをお招きし、くわしく教えていただきます。

Q（根本さんおはよう） 最近、新聞を読んでみると、海をただよるプラスチックの問題に関する記事をよく目にします。国連の作ったミニドキュメンタリー「リンク参照」では、海鳥がプラスチックを食べたおなかでプラスチックが写っている様子が映っていました。人間に換算すると胃の中に十数キロのプラスチックが入っている計算になるそうです。

Q（さかなくん） ギョギョー!! そんなに食べてしまったら飛べなくなってしまうそうですね。健康への影響も心配です。

A お魚ではイワシの仲間が海のプラスチックを食べてしまうことが報告されています。イワシ類を食べて育つ大きなお魚が、めづりめづって私たちにも影響が出ないか心配です。

Q このままだと2050年には海の中のプラスチックの重量が、魚の重量を上回ってしまうといわれています。

A 2020年の東京オリンピック・パラリンピックで「3R」（再利用・削減・リサイクル）が注目されます。

Q どうしたらいいのでしょうか。さかなくんは、できることをどんどんしていきたいでギョさいます。プラスチックは便利で、生活には欠かせないものなので、たくさん使ってしまうのですが、これからは自然に優しいものを使って、プラスチックは特別な時にだけ使うように、みんなで切り替えていきたいでギョさいますね。

A プラスチックを使う時は「これはどこからやってきて、どうやって処理されるんだろう」と考えてみてはどうかと思えます。プラスチックは非常に便利で生活を豊かにしてくれています。でも、使いすぎて、環境をおびやかしているのではありません。そこは改めなければならぬと思います。

（来週は根本さんとさかなくんが今年訪れた、ある国についてお伝えします）



インドの主要都市、西海岸のムンバイの浜辺 ©United Nations Environment Programme



海のプラスチック汚染について話した国連広報センター（UNICC）の根本さん（右）とさかなくん（左）東京都渋谷区の国連広報センター、近藤理恵撮影



朝日小学生新聞
2018. 7. 28. 掲載

第37回

海とさかな

自由研究・作品コンクール

第37回

「海とさかな」自由研究・作品コン

わたしたちが毎日食べているさかな。たくさんのいのちを育てている海。海もさかなも、わたしたちのくらしと深くつながっていますね。

なぜ？ どうして？ と、海やさかなの不思議や、その美しさ、魚食に目を向けて、観察図、自由研究、絵画、絵本、作文、工作で、「表現」してみましょう。

みなさんの新しい発見と創造からうまれる個性ゆたかな作品をお待ちしています。

